

■研究・実践の課題（テーマ）

食事調査法の検討

■主任研究者 下方浩史

■共同研究者 徳留裕子、早瀬須美子、三ツ口千代菊、庄司吏香

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

2020 年度は下記のような目的、方法で研究計画を立案したが、健康上の理由もあり、未だ、解析、結果、考察など報告いたしかねる状況である。

[目的] 高齢者の食事調査を行う際、食物を調理前あるいは食べる前に、測って記録する秤量食事調査を本人・代理者に依頼するのは困難な場合が多い。そこで、食前・食後の料理を撮影してもらい、栄養士が食品、重量を推定する食事写真記録法（写真法）の妥当性および推定者間の誤差について検討する。

[方法] 5種類のモデル献立（食品名、重量明記）の写真を用意し、5名の栄養士が写真と簡単なメモをみて、食品名、重量を推定し記録させる。

献立の使用食品・推定栄養素量について、平均値の比較、個人間誤差について調べ、写真法の妥当性について検討する。

[期待される成果] 要介護高齢者を含む高齢対象者の食事調査において、秤量法に代えて写真法を用いることで、健康・栄養調査への参加率の上昇が期待できる。